

Need to Know コンポーネント管理ガイド
10g リリース 3 (10.1.3.3.3)
部品番号 : B51296-01

2008 年 10 月

Need to Know コンポーネント管理ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.3)

部品番号 : B51296-01

原本名 : Need to Know Component Administration Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.3)

原本協力者 : Karen Johnson, Scott Nelson

Copyright © 2005, 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（*redundancy*）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性あります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章：はじめに

概要	1-1
製品の概要	1-1
機能	1-2
適用	1-3
要件	1-4
コンポーネントの内容	1-4
このガイドについて	1-5

第 2 章：インストールと構成

概要	2-1
NTK コンポーネントのインストール	2-1
NTK コンポーネントの構成	2-3

第 3 章：Need to Know コンポーネントの使用

概要	3-1
セキュリティ構成のカスタマイズ	3-1
コンテンツ・セキュリティ	3-2
検索結果	3-5
ヒット・リスト・ロール	3-6
WHERE 句の導出	3-6
コンテンツ・メタデータ・セキュリティ	3-6
「Disclosure Query Security」アプレット	3-7
問合せの構文	3-9
like 演算子	3-9
ブール演算子	3-10
UserName 変数	3-10

stdSecurity 変数	3-10
ユーザー属性フィールド	3-10
ユーザー・ロール	3-11
コンテンツレベル問合せの定義	3-11
NTK 管理インタフェース	3-12
「NTK Configuration Information」 ページ	3-13
「Content Security Configuration Information」 ページ	3-18
「Search Results Configuration Information」 ページ	3-23
「Hit Lit Roles Configuration Information」 ページ	3-26
「Test NTK Content Security」 ページ	3-28

第 4 章：セキュリティ・カスタマイズのサンプル

概要	4-1
コンテンツ・セキュリティのサンプル	4-1
簡単な Idoc スクリプト関数	4-2
stdSecurityCheck の使用	4-2
isStrIntersect の使用	4-2
allStrIntersect の使用	4-3
includeNTKReadSecurityScript の使用	4-3
検索結果のサンプル	4-3
リンクの無効化	4-4
リンクの変更	4-4
イメージの変更	4-4
ヒット・リスト・ロールのサンプル	4-4
問合せヒット・リスト・ロールの使用	4-4
ブラック・ホール・チェックインの作成	4-5

付録 A: サード・パーティ・ライセンス

概要	A-1
Apache Software License	A-2
W3C® Software Notice and License	A-2
Zlib License	A-4
General BSD License	A-5
General MIT License	A-5
Unicode License	A-6
その他の帰属	A-7

索引

1

はじめに

概要

この章では、次の内容について説明します。

- ❖ [製品の概要](#) (1-1 ページ)
- ❖ [機能](#) (1-2 ページ)
- ❖ [適用](#) (1-3 ページ)
- ❖ [要件](#) (1-4 ページ)
- ❖ [コンポーネントの内容](#) (1-4 ページ)
- ❖ [このガイドについて](#) (1-5 ページ)

製品の概要

Need to Know (NtkDocDisclosure または NTK) コンポーネントでは、次の Content Server のセキュリティ分野のカスタマイズがサポートされます。

- ❖ コンテンツ・セキュリティ: コンテンツ・アイテムへのユーザー・アクセスの変更
- ❖ 検索結果: 検索結果の表示の変更
- ❖ ヒット・リスト・ロール: 問合せおよびチェックイン・ページのユーザー資格証明の変更
- ❖ コンテンツ・メタデータ・セキュリティ: コンテンツ・アイテムに対するメタデータの変更動作の変更
- ❖ WHERE 句の導出: 検索での WHERE 句の使用の変更

たとえば、標準セキュリティでは、ユーザーは、最低でも読取り権限を持つコンテンツのみを表示できます。Need to Know コンポーネントでは、これを2通り変更できます。

- ❖ すべてのユーザーは、メタデータまたはドキュメント自体を参照できない場合でも、指定されたセキュリティ・グループからのコンテンツ・アイテムを検索結果リストに表示できます。
- ❖ コンテンツ・メタデータまたはユーザー属性に対する問合せを使用して、読取り権限および書込み権限をセキュリティ・グループ内で拡張または制限できます。

Need to Know コンポーネントには、HTML 管理インタフェースが用意されており、セキュリティ構成ステータス情報の表示、セキュリティ構成値の編集、セキュリティ構成値に対する Idoc スクリプトの表示とテストを行えます。

機能

Need to Know の機能は、次の機能を使用して実装されます。

- ❖ Need to Know コンポーネントは、セキュリティ・グループごとに適用されます。コンポーネントを使用するセキュリティ・グループを指定する必要があります。指定したセキュリティ・グループのすべてのコンテンツが、すべてのユーザーの検索結果に表示されます。
- ❖ このコンポーネントには、すべてのアカウントを有効にするオプションが用意されており、ユーザーは、アカウントに関係なく、コンテンツ・アイテムを検索でヒットできます。
- ❖ 「Search」ページの「Security Group」リストに、すべての指定されたセキュリティ・グループが表示されます。アカウントが有効な場合、「Search」ページの「Accounts」リストにすべてのアカウントが表示されます。
- ❖ Need to Know の機能をサポートするには、新しい DocDisclosureQuery メタデータ・フィールドと新しいヒット・リスト・ロールを作成する必要があります。ヒット・リスト・ロールには、指定されたすべてのセキュリティ・グループに対する読取りアクセス権が付与されます。
- ❖ Need to Know 問合せでは、新たにユーザー属性フィールドを作成したり、既存のものを使用することができます。
- ❖ ドキュメントをチェックインする際、DocDisclosureQuery メタデータ・フィールドに問合せを定義できます。問合せの条件にコンテンツ・メタデータおよびユーザー属性を含め、問合せ結果でドキュメントへのアクセス権を判断できます。問合せを Idoc スクリプトに手動で入力することも、「Disclosure Query Security」アプレットを使用して問合せを構築することもできます。

- ❖ ユーザーが検索を行う際、ヒット・リスト・ロールがユーザーに動的に適用され、指定されたセキュリティ・グループのすべてのコンテンツへの読取りアクセス権が付与されます。次に、コンテンツ・アイテムに対するユーザーのアクセス権を決める DocDisclosureQuery フィールドの問合せに対して、各コンテンツ・アイテムがチェックされます。
- ❖ DocDisclosureQuery フィールドが空の場合、標準セキュリティが適用されます。標準セキュリティは、問合せフィールドに明示的に指定することもできます。また、他のドキュメントおよびユーザー属性とのブール組合せで使用し、読取りアクセスを拡張したり、制限することもできます。
- ❖ NTK セキュリティ・グループ内にないコンテンツ・アイテムに対する問合せが入力された場合、問合せは実行されず、標準セキュリティが適用されます。
- ❖ ユーザーが、セキュリティ・グループに対して書込み以上のアクセス権を持つ場合、DocDisclosureQuery の問合せは実行されず、標準セキュリティが適用されます。
- ❖ コンテンツ・アイテムごとに個々の問合せを指定する必要がないよう、すべてのコンテンツに対するグローバル問合せを定義できます。チェックイン時に問合せが入力された場合、グローバル問合せをオーバーライドするようシステムを設定できます。

適用

このコンポーネントは、次のような複雑なセキュリティ実装の開始点として使用できます。

- ❖ 機密文書のダウンロードの統合された追跡。
- ❖ カスタム・ロジックを使用した、書込み以上の権限の制御。
- ❖ 特定のセキュリティ・グループ内のドキュメントは数回のダウンロードのみ行える、などの表示制限やサブスクリプションの制御の実装。
- ❖ カスタム・データベース表からのエントリまたはカスタム API からの結果の組み込みによるアクセスの制御。これは、外部で制御される認可に対する仕組みです。

要件

Need to Know コンポーネントについて、次の点を考慮することが重要です。

- ❖ バージョン7.5のNeed to Knowコンポーネントは、バージョン6.2および7.xのStellent Content Server で動作します。



注意：バージョン7.5 の Need to Know コンポーネントは、6.2 より前のバージョンの Stellent Content Server とは互換性がありません。以前のバージョンの SCS で実行する場合は、以前のバージョンの Need to Know を入手する必要があります。使用可能な NTK コンポーネントと、これと互換性のある SCS のバージョンのリストは、Stellent のサポートの Web サイトの「Extras」リンクを参照してください。

コンポーネントの内容

Need to Know コンポーネント・ファイル NeedToKnow.zip は、Stellent のサポートの Web サイトからダウンロードでき、サンプルなども含まれています。Zip ファイルには、次のファイルが含まれています。

説明	ファイル名
コンポーネント・ファイル	*.hda *.class *.htm *.zip
クラス・ファイル	idcdisclosure.zip





このガイドについて

このガイドでは、Content Server に Need to Know コンポーネントをインストールする手順を示します。このドキュメントに含まれる情報は、製品テクノロジーの進歩や、ハードウェア、オペレーティング・システム、サード・パーティ・ソフトウェアの作成や変更に伴って変わる可能性があります。

表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用しています。

- ❖ `<Install_Dir>/` という表記は、コンテンツ・サーバー・インスタンスがインストールされているシステム上の場所の参照に使用されます。
- ❖ スラッシュは、パス名のディレクトリ・レベルの区切りに使用されます。スラッシュは、ディレクトリ名の最後に必ず付加されます。
- ❖ 注意、技術ヒント、重要な通知および警告には、次の表記規則が使用されます。

記号	説明
	これは注意です。情報に対する注意を喚起するために使用されます。
	これは技術ヒントです。タスクを簡単にするために使用できる情報を示すために使用されます。
	これは重要な通知です。必須手順または必須情報を示すために使用されます。
	これは警告です。データの消失やシステムの重大な問題を引き起こす可能性のある情報を示すために使用されます。

はじめに

2

インストールと構成

概要

この章では、次の内容について説明します。

- ❖ [NTK コンポーネントのインストール](#) (2-1 ページ)
- ❖ [NTK コンポーネントの構成](#) (2-3 ページ)

NTK コンポーネントのインストール

Component Wizard または Component Manager を使用して、次のようにコンポーネントをインストールします。

Component Wizard でのインストール

1. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「Oracle Content Server」 → 「< インスタンス >」 → 「Utilities」 → 「Component Wizard」と選択して、Component Wizard を起動します。
Component Wizard のメイン画面と「Component List」画面が表示されます。
2. 「Component List」画面で、「Install」をクリックします。
「Install」画面が表示されます。
3. 「Select」をクリックします。NeedToKnow.zip ファイルに移動し、これを選択します。
4. 「Open」をクリックします。
zip ファイルの内容が、「Install」画面のリストに追加されます。

5. 「OK」をクリックします。
6. Component Wizard から、NTK コンポーネントを有効にするかどうかを確認されます。「Yes」をクリックします。
「Component List」画面に、NTK コンポーネントが有効として表示されます。
7. 2-3 ページの「[NTK コンポーネントの構成](#)」の手順に従って続行します。

Component Manager でのインストール

1. 「Administration」トレイを開きます。
2. 「Admin Applets」オプションをクリックして「Administration」ページを開きます。
3. 「Admin Server」リンクをクリックします。
4. 該当するコンテンツ・サーバー・インスタンスをクリックします。
5. 「Component Manager」リンクを選択します。
Component Manager の画面が表示されます。
6. 「Install New Component」ボックスの隣にある「Browse」を選択します。
NeedToKnow.zip ファイルに移動し、これを選択します。
7. 「Install」をクリックします。
8. インストールが正常に終了したら、右側（無効）の画面で NTK コンポーネントをハイライトします。
9. 「Enable」をクリックします。
サーバーの再起動を促すメッセージが表示されます。
10. 2-3 ページの「[NTK コンポーネントの構成](#)」の手順に従って続行します。

NTK コンポーネントの構成

この項では、Need to Know コンポーネントを使用した基本的なセキュリティ構成の設定手順について説明します。この手順では、セキュリティ構成変数、カスタム・メタデータ・フィールドおよびヒット・リスト・ロールの設定方法について説明します。基本的な構成の設定後、Need to Know コンポーネント・インタフェースを使用して、セキュリティ構成の編集、テストおよび改善を行うことができます。



注意：Component Wizard を使用して Need to Know コンポーネントをインストールした場合、この手順を開始する前に、該当するコンテンツ・サーバー・インタフェースの「Admin Server」ページを開く必要があります。Component Manager を使用した場合は、「Admin Server」ページはすでに開いています。

1. 「Admin Server」ページの左側のサイドバーで「General Configuration」を選択します。
2. 「General Configuration」ページの「Additional Configuration Variables」で、テキスト領域の最下部までスクロールし、次のテキストを追加します。
`SpecialAuthGroups=<group1>,<group2>,...`
 - <group1>,<group2>,... を、Need to Know コンポーネントを使用するセキュリティ・グループに置き換えます。
 - セキュリティ・グループは、小文字で入力する必要があります。
 - リストされていないセキュリティ・グループには、標準セキュリティが適用されます。



注意：Records Management などのその他の製品にも SpecialAuthGroups 構成変数を使用できるため、Need to Know コンポーネントを使用するセキュリティ・グループに一意の名前を使用するよう注意してください。

3. コンテンツ・アイテム・レベルの問合せを指定する場合、Configuration Manager を使用して新規メタデータ・フィールドを追加します。（グローバル問合せのみを使用する場合は不要です。）新規メタデータ・フィールドは、Configuration Manager を使用して追加する必要があります。Need to Know コンポーネント・インタフェースからは追加できません。
 - DocDisclosureQuery、NeedToKnow など、任意のフィールド名とタイトルを使用できます。
 - フィールドは、メモ・フィールドとして指定する必要があります。
 - フィールドの追加後、「Update Database Design」→「Rebuild Search Index」とクリックします。



注意：コンテンツ・サーバー・インスタンスに多くのコンテンツがすでに含まれている場合、検索索引の再構築には時間がかかります（数日かかる場合もあります）。システムの保守期間やシステムがあまり使用されていないときに再構築することを検討します。

4. User Admin 管理アプレットを使用して、ヒット・リスト・ロールを追加します。
 - hitlist、NTKrole など、任意のロール名を使用できます。
 - SpecialAuthGroups 構成エントリに指定したすべてのセキュリティ・グループに、読取りアクセスを付与します。
 - SpecialAuthGroups 構成エントリに指定したセキュリティ・グループをチェックイン・ページまたは更新ページにリストするには、このロールに書込みアクセスを付与する必要があります。
 - 2つのヒット・リスト・ロールを作成し、別の名前と権限を付与することができます。1つ目のロールを、コンテンツ検索の問合せロールとして Need to Know コンポーネントに構成し、もう1つのロールを、コンテンツ・チェックインおよび更新の更新ロールとして Need to Know コンポーネントに構成できます。
 - このロールはユーザーに割り当てないでください。ヒット・リスト・ロールが問合せまたは更新ロールとして構成された場合、ユーザーの属性に自動的に追加されます。
5. Need to Know セキュリティの範囲を超えるアクセス権をユーザーに設定する場合、「General Configuration」ページを使用して「Additional Configuration Variables」セクションに追加セキュリティ構成設定を含めます。テキスト領域の最下部までスクロールし、必要な構成設定を入力します。
6. Need to Know 問合せで使用する新規ユーザー属性フィールドを追加する場合、「User Admin」ツールを使用してユーザー属性フィールドを追加します。
7. コンテンツ・サーバーを再起動します。



注意： Need to Know コンポーネントをインストールすると、特定のセキュリティ構成値が `<Install_Dir>/<instance>/data/needtoknow/ntk_config.hda` ファイルに格納されます。これらの値は、第3章に説明されている Need to Know 管理インタフェースを使用して編集できます。また、`ntk_config.hda` ファイルを直接編集することもできます。

3

NEED TO KNOW コンポーネントの使用

概要

この章では、次の内容について説明します。

- ❖ [セキュリティ構成のカスタマイズ](#) (3-1 ページ)
- ❖ [「Disclosure Query Security」アプレット](#) (3-7 ページ)
- ❖ [問合せの構文](#) (3-9 ページ)
- ❖ [コンテンツレベル問合せの定義](#) (3-11 ページ)
- ❖ [NTK 管理インタフェース](#) (3-12 ページ)

セキュリティ構成のカスタマイズ

Need to Know コンポーネントでは、次の分野にフォーカスした追加セキュリティ構成がサポートされます。

- ❖ [コンテンツ・セキュリティ](#): コンテンツ・アイテムへのユーザー・アクセスの変更
- ❖ [検索結果](#): 検索結果の表示の変更
- ❖ [ヒット・リスト・ロール](#): 問合せおよびチェックイン・ページのユーザー資格証明の変更
- ❖ [WHERE 句の導出](#): 検索での WHERE 句の使用の変更

- ❖ **コンテンツ・メタデータ・セキュリティ**: コンテンツ・アイテムに対するメタデータの変更動作の変更

コンテンツ・セキュリティ

標準セキュリティでは、セキュリティ・ロール、グループおよびアカウントを使用して、コンテンツ・アイテムへのアクセスに必要な権限レベルがユーザーにあるかどうかを判断します。Need to Know コンポーネントでは、ユーザー権限の決定プロセスをカスタマイズできます。Need to Know コンポーネント・インタフェースを使用して、構成フィールドを設定し、読取り、書込みおよび削除の権限レベルを設定する Idoc スクリプトを作成します。Idoc スクリプトに、ユーザーおよびコンテンツ・メタデータ値を含めることもできます。

Need to Know コンポーネントでは、次のプロセスを使用してコンテンツ・セキュリティを導出します。

1. ユーザーがコンテンツ情報を表示するリンクをクリックします。
2. ユーザーに **admin** ロールがある場合、標準セキュリティが使用され、ユーザーはコンテンツを表示することができます。
3. コンテンツ・アイテムのセキュリティ・グループが **Need to Know** 認可グループでない場合、標準セキュリティを使用してユーザーの読取りリクエストが評価されます。
4. **Need to Know** セキュリティが、読取り権限レベルで有効でない場合、標準セキュリティを使用してユーザーの読取りリクエストが評価されます。
5. **Need to Know** セキュリティが読取り権限レベルで制限されておらず、コンテンツ・アイテムへの標準セキュリティ・アクセス権がユーザーにある場合、ユーザーはコンテンツへのアクセスが許可されます。
6. **Need to Know** セキュリティ Idoc スクリプト（この場合は、読取りセキュリティ・スクリプト）が評価されます。
7. **Need to Know** アクセス・フラグ（この場合は、**isNTKReadAccess**）が評価され、コンテンツへのアクセス権がユーザーにあるかどうか判断されます。アクセスは、**Need to Know** アクセス・フラグに基づいて、許可または拒否されます。

Need to Know コンポーネントでは、読取り、書込み、削除の各アクセス・レベルに対してセキュリティ構成スクリプトをテストすることもできます。テストでは、ユーザーおよびコンテンツ ID を指定でき、ロールとアカウントを指定できます。テストでは、ユーザーの実際の属性ではなく、これらの属性が使用されます。たとえば、属性にアクセスできない外部ユーザーを使用して Idoc スクリプトをテストできます。テストの実行後、コンテンツ・アイテムへのアクセス権がユーザーにあるかどうか、**Need to Know** セキュリティが使用されたかどうか、**Need to Know** セキュリティが使用されなかった場合はその理由がコンポーネントからレポートされます。

Need to Know コンポーネント・インタフェースを使用したコンテンツ・セキュリティの構成の詳細は、3-13 ページの「[「NTK Configuration Information」 ページ](#)」および 3-18 ページの「[「Content Security Configuration Information」 ページ](#)」を参照してください。コンテンツ・セキュリティを構成できる Idoc スクリプトのサンプルは、[第 4 章「セキュリティ・カスタマイズのサンプル」](#)を参照してください。

次の Idoc スクリプト関数をスクリプト・フィールドに使用して、コンテンツ・セキュリティを判断できます。Idoc スクリプトの詳細は、『Idoc スクリプト・リファレンス・ガイド』を参照してください。

Idoc スクリプト	説明
allStrIntersect	2 つのカンマ区切りの文字列を必須パラメータとし、1 つのブール・フラグをオプション・パラメータとします。2 番目の文字列のすべての値が最初の文字列に出現する場合、関数は true を返します。オプション・パラメータが true に設定され、2 番目の値が空の文字列の場合、関数は true を返します。デフォルトでは、オプション・パラメータは false です。カンマ区切りの文字列値の比較では、大文字と小文字は区別されません。
includeNTKDeleteSecurityScript	削除セキュリティ・スクリプトを評価し、 isNTKDeleteAccess 変数を読み取りセキュリティ・スクリプトまたは書き込みセキュリティ・スクリプトで使用できるようにします。この関数が削除セキュリティ・スクリプトで使用された場合は、無視されます。
includeNTKReadSecurityScript	読み取りセキュリティ・スクリプトを評価し、 isNTKReadAccess 変数を書込みセキュリティ・スクリプトまたは削除セキュリティ・スクリプトで使用できるようにします。この関数が読み取りセキュリティ・スクリプトで使用された場合は、無視されます。
includeNTKWriteSecurityScript	書き込みセキュリティ・スクリプトを評価し、 isNTKWriteAccess 変数を読み取りセキュリティ・スクリプトまたは削除セキュリティ・スクリプトで使用できるようにします。この関数が書き込みセキュリティ・スクリプトで使用された場合は、無視されます。

Idoc スクリプト	説明
isDisclosureQuery	開示フィールド（指定されている場合）に対して問合せを評価し、 true または false を返します。オプションのパラメータを指定して、開示問合せが空の場合に true または false を返すかどうかを指定することができます。開示フィールドが指定されていない場合、または存在しない場合、この関数は常に false を返します。
isMetaChange	コンテンツ・セキュリティ・コールにコンテンツの更新またはチェックインが含まれる場合、この変数が設定されます。
isStrIntersect	2つのカンマ区切りの文字列を必須パラメータとし、1つのブール・フラグをオプション・パラメータとします。2番目の文字列の1つ以上の値が最初の文字列に出現する場合、関数は true を返します。オプション・パラメータが true に設定され、2番目の値が空の文字列の場合、関数は true を返します。デフォルトでは、オプション・パラメータは false です。カンマ区切りの文字列値の比較では、大文字と小文字は区別されません。
stdSecurityCheck	現在のアクセス・レベルに対する標準セキュリティを確認します。たとえば、関数が読取りセキュリティ・スクリプトに含まれる場合、読取りアクセス・レベルでセキュリティを確認します。

検索結果

Need to Know コンポーネントでは、検索問合せから返される検索結果の表示をカスタマイズできます。NTK インタフェースを使用して、非表示フィールドとスクリプトの2つの構成値を設定できます。

非表示フィールドの値は、「Search Results」ページのビューに表示されないフィールドのリストです。値は空の文字列に設定されます。フィールドを非表示にするには、コンポーネントの検索結果 `Idoc` スクリプトで、フィールド `hideFields` を設定する必要があります。

`Idoc` スクリプトで、検索結果の表示を制御します。検索結果の行ごとに、`Idoc` スクリプトが評価されます。スクリプト内に多くのフィールドを設定して、検索結果の表示を変更できます。フィールドのリストと、Need to Know コンポーネント・インタフェースを使用した検索結果の表示スクリプトのカスタマイズの詳細は、3-23 ページの「[Search Results Configuration Information](#) ページ」を参照してください。

Need to Know コンポーネントでは、`securityCheck` `Idoc` スクリプト関数を使用して、検索結果の表示を決定します。`securityCheck` 関数では、構成値に応じて、現在のコンテンツ・アイテムに対するセキュリティ（標準セキュリティまたは Need to Know セキュリティ）が確認されます。関数には、確認するアクセス・レベルを指定するオプション・パラメータがあります。

- 1 = 読取り
- 2 = 書込み
- 4 = 削除
- 8 = 管理

`securityCheck` にパラメータが使用されない場合、デフォルトで読取りアクセス・レベルが確認されます。

検索結果の表示を変更する `Idoc` スクリプトのサンプルは、[第4章「セキュリティ・カスタマイズのサンプル」](#)を参照してください。

ヒット・リスト・ロール

ヒット・リスト・ロールでは、コンテンツの「Search」、「Content Check In」、「Update」の各ページを使用するためのユーザー資格証明を変更できます。User Admin アプレットを使用して、任意の名前でヒット・リスト・ロールを追加できます。ロールが有効になると、検索、チェックインまたは更新時にロールが自動的にユーザーの属性に追加されるため、ロールをユーザーに割り当てないでください。ヒット・リスト・ロールを作成する場合、SpecialAuthGroups 構成エントリに指定するすべてのセキュリティ・グループに読取りアクセスを付与する必要があります。これらのセキュリティ・グループを「Content Check In」ページまたは「Update」ページにリストするには、ヒット・リスト・ロールに書込みアクセスも追加する必要があります。

Need to Know コンポーネントの「Hit List Roles Configuration Information」ページを使用して、問合せと更新の2つの形式のヒット・リスト・ロールを実装できます。問合せに使用されるヒット・リスト・ロールは、コンテンツ検索に適用されます。更新に使用されるヒット・リスト・ロールは、コンテンツのチェックインおよび更新に適用されます。

ヒット・リスト・ロールの使用の詳細は、3-12 ページの「[NTK 管理インタフェース](#)」および 3-26 ページの「[Hit List Roles Configuration Information](#)」ページを参照してください。ヒット・リスト・ロールの使用サンプルは、第4章「[セキュリティ・カスタマイズのサンプル](#)」を参照してください。

WHERE 句の導出

Need to Know コンポーネントには、検索結果の取得に使用される問合せの WHERE 句をカスタマイズできる2つのフィルタが用意されています。

- ❖ `preDetermineWhereClause`: WHERE 句全体をオーバーライドします。
- ❖ `postDetermineWhereClause`: 標準セキュリティの WHERE 句に追加します。

これらのフィルタのコードは、NTKFilter Java クラスにあります。これらのフィルタの動作の例は、第4章「[セキュリティ・カスタマイズのサンプル](#)」を参照してください。

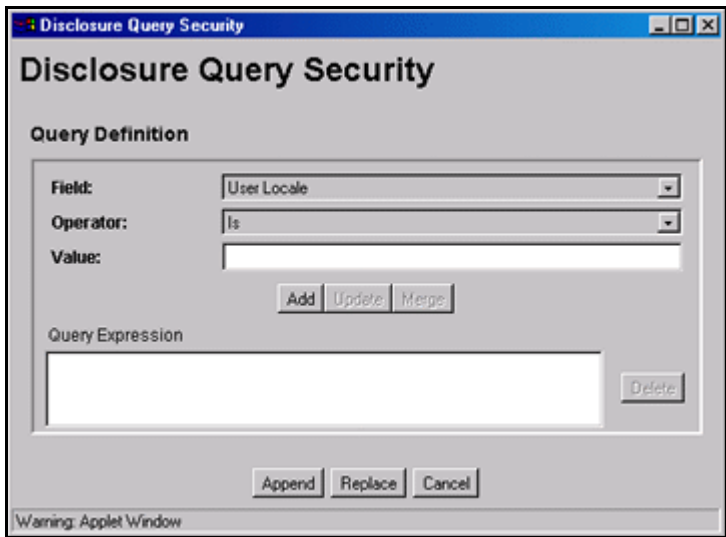
コンテンツ・メタデータ・セキュリティ

Need to Know コンポーネントには、コンテンツ・アイテムがチェックインまたは更新されたときのメタデータの変更動作を変更できる `checkMetaChangeSecurity` という名前のフィルタが用意されています。


このフィルタのコードは、NTKFilter Java クラスにあります。このフィルタの動作の例は、第4章「[セキュリティ・カスタマイズのサンプル](#)」を参照してください。

「DISCLOSURE QUERY SECURITY」 アプレット

「Disclosure Query Security」 アプレットは、チェックイン時の特定のコンテンツ・アイテムに対する問合せの定義に使用されます。アプレットにアクセスするには、「Content Check In Form」 ページの「DocDisclosureQuery」 フィールドの隣にある「Update」 ボタンをクリックします。



機能	説明
「Field」 フィールド	問合せに指定するユーザー属性フィールドを選択します。このリストには、「User Locale」、「User Name」、「User Role」と、すべてのカスタム・ユーザー属性フィールドが含まれています。
「Operator」 フィールド	「Field」 および 「Value」 に適用する演算子を選択します。次の演算子が、「User Role」 以外のすべてのフィールドに使用されます。 Is: 指定したフィールドの値が、指定した値と一致します。 Is Not: 指定したフィールドの値が、指定した値と一致しません。 Begins With: 指定したフィールドの値が、指定した値で始まります。 Contains: 指定したフィールドの値に、指定した値が含まれます。 「User Role」 フィールドには、「Has Member」 演算子のみを使用でき、「Value」 フィールドにロールのドロップダウン・リストが表示されます。

機能	説明
「Value」フィールド	<p>問合せに指定する値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択したフィールドに対するオプション・リストが指定されている場合は、ドロップダウン・リストから値を選択します。 選択したフィールドに対するオプション・リストが指定されていない場合は、テキスト・ボックスに値を入力します。
「Add」ボタン	<p>「Field」フィールド、「Operator」フィールドおよび「Value」フィールドで指定した問合せを「Query Expression」テキスト・ボックスに入力します。「Add」ボタンをクリックするたびに、現在の設定が AND 句として問合せに追加されます。</p>
「Update」ボタン	<p>選択した問合せ句を「Field」、「Operator」、「Value」の各フィールドで指定したパラメータで更新します。</p>
「Merge」ボタン	<p>選択した問合せ句に対する OR 句を作成（パイプ文字を挿入）します。このボタンは、次の条件で使用可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドロップダウン・リストのフィールドが、選択した問合せ句に指定したフィールドと一致します。 選択した問合せ句の演算子が、「Is Not」ではありません。 ドロップダウン・リストの演算子が、「Is Not」ではありません。 <p> 注意：パイプ文字は、「User Roles」の問合せ句の「Query Expression」には表示されませんが、「DocDisclosureQuery」フィールドに表示されます。</p>
Query Expression	<p>問合せの各句を 1 行に表示します。</p>
「Delete」ボタン	<p>選択した問合せ句を削除します。</p>
「Append」ボタン	<p>「Content Check In Form」ページの「DocDisclosureQuery」フィールドの既存の問合せに「Query Expression」を追加します。</p>
「Replace」ボタン	<p>「Content Check In Form」ページの「DocDisclosureQuery」フィールドの既存の問合せを「Query Expression」で置き換えます。</p>
「Cancel」ボタン	<p>問合せの変更を適用せずに、「Disclosure Query Security」アプレットを閉じます。</p>

問合せの構文

「Disclosure Query Security」アプレットでは、正しい Idoc スクリプト構文で問合せが作成されますが、問合せを「DocDisclosureQuery」フィールドに直接入力することもできます。次の Idoc スクリプト構文が、開示問合せに使用されます。

- ❖ [like 演算子](#) (3-9 ページ)
- ❖ [ブール演算子](#) (3-10 ページ)
- ❖ [UserName 変数](#) (3-10 ページ)
- ❖ [stdSecurity 変数](#) (3-10 ページ)
- ❖ [ユーザー属性フィールド](#) (3-10 ページ)
- ❖ [ユーザー・ロール](#) (3-11 ページ)



技術ヒント: 「DocDisclosureQuery」フィールドに直接入力する場合の問合せ句の正しい書式は、3-7 ページの「[「Disclosure Query Security」アプレット](#)」を使用して確認できます。

like 演算子

like 演算子では、部分文字列とワイルドカード文字列が照合されます。文字列全体を一重引用符で囲みます。

部分文字列

like 演算子を使用して部分文字列を照合します。

ワイルドカード文字列

ワイルドカード文字列を使用して可変文字とオプションを照合します。ワイルドカード文字列には、次の構文が使用されます。

*: 0 文字以上の文字列と一致

?: 1 文字と一致

|: 複数のオプションの区切りで、1 つのオプションのみが一致

次に例を示します。

```
dDocName like '*MyClient*|199? Reports'
```

"MyClient"、"3rd Quarter MyClient Report"、"MyClient Visit"、"Meeting with MyClient" および "1996 Reports" と一致します。この文字列は、"My Client"、"All 1996 Reports" または "1996 Report" とは一致しません。

ブール演算子

問合せ句は、**and**、**or** および **not** のブール演算子で結合できます。

- ❖ ブール演算子には小文字を使用します。
- ❖ 各句をカッコで囲む必要があります。次に例を示します。
(uRoles like '*:contributor:*) and (uUserLocale like 'hq')

UserName 変数

変数 **UserName** は、現在ログインしているユーザーの名前です。次に例を示します。

```
UserName like 'jgreen|hbrown'
```

ユーザー **jgreen** または **hbrown** にのみ、権限が付与されます。

stdSecurity 変数

変数 **stdSecurity** は、標準セキュリティ・モデルを指定します。**stdSecurityCheck** Idoc スクリプト関数にマップされます。この変数は、他の問合せ句とのブール組合せに使用して、アクセスを制限 (**and** 演算子を使用) したり、拡張 (**or** 演算子を使用) できます。次に例を示します。

```
stdSecurity or UserName like 'jgreen|hbrown'
```

ユーザーがドキュメントに通常アクセスできる場合、あるいはユーザーが **jgreen** または **hbrown** の場合に、ドキュメントへのアクセスが許可されます。

ユーザー属性フィールド

問合せにユーザー属性フィールドを指定する場合、*uFieldName* の形式を使用します。次に例を示します。

```
uMyUserField like 'Value'
```


ユーザー・ロール

UserRoles スクリプト関数は、現在のユーザーに対するすべてのロールをカンマ区切り形式で返すため、ユーザー・ロールには特別な形式が必要です。（この例では、この関数用に `uRoles` ショートカットが定義されています。） `uRoles` の値の例は次のとおりです。

```
role1,role2,...,role10
```

このため、値 `role1` を含む問合せ文字列を指定するには、ロール・リスト内の位置に関係なく値が認識されるようワイルドカードを含める必要があります。次に例を示します。

```
uRoles like '*role1*'
```

ただし、この問合せ文字列では、付与する必要のないロール `role10` のユーザーにもセキュリティ・アクセス権が付与されます。問合せに指定されたロールにのみ `uRoles` の値を限定するには、`DelimitedUserRoles` 関数と構文を使用する必要があります。次のように、ロール値の両側に一重引用符とコロンを含めます。

```
uRoles like '*:role1:*
```

`role1` または `role2` と一致するには、次の構文を使用します。

```
uRoles like '*:role1:*|*:role2:*
```

コンテンツレベル問合せの定義

各コンテンツ・アイテムに対する問合せを定義するには、次の手順を使用します。

1. 「Content Check In Form」 ページ（新規コンテンツ・アイテムの場合）または「Info Update Form」 ページ（既存のコンテンツ・アイテムの場合）を表示します。
2. 「DocDisclosureQuery」 フィールド（このフィールドの名前はインストール時に指定した名前）の隣の「Update」 ボタンをクリックします。

[「Disclosure Query Security」 アプレット](#)（3-7 ページ）が表示されます。

3. 「Field」、「Operator」 および 「Value」 を選択して問合せ句を作成します。
4. 「Add」 をクリックします。

問合せ句が、「Query Expression」 テキスト・ボックスに追加されます。

5. 問合せの構築を続けます。
 - **and** 演算子を使用して別の問合せ句を追加するには、値を入力して「Add」 をクリックします。
 - 既存の問合せ句を変更するには、新しい値を入力し、変更する問合せの行を選択して「Update」 をクリックします。
 - **or** 句を作成するには、新しい値を入力し、変更する問合せの行を選択して「Merge」 をクリックします。

- 問合せ句を削除するには、問合せの行を選択して「**Delete**」をクリックします。
6. 「DocDisclosureQuery」フィールドに問合せ式を入力します。
- 「DocDisclosureQuery」フィールドの既存の問合せを、アプレットの問合せ式で置き換えるには、「**Replace**」をクリックします。
 - アプレットの問合せ式を「DocDisclosureQuery」フィールドの既存の問合せに追加するには、「**Append**」をクリックします。

「Disclosure Query Security」アプレットでは、問合せ句が適切な構文に変換されて、「Content Check In Form」ページまたは「Info Update Form」ページの「DocDisclosureQuery」フィールドに問合せが入力されます。



技術ヒント: 「DocDisclosureQuery」フィールドに直接入力する場合の問合せ句の正しい書式は、「Disclosure Query Security」アプレットを使用して確認できます。

7. 残りのフィールドに入力したら、「**Check In**」または「**Update**」をクリックします。
- 開示問合せが検証されます。問合せの書式が間違っている場合は、エラー・メッセージに問合せの問題が示されます。

NTK 管理インタフェース

Need to Know コンポーネントのインストール後、「Administration」トレイまたはメニュー全体で「NTK Configuration Information」リンクが使用可能です。このリンクから「NTK Configuration Information」ページにアクセスできます。このページには、セキュリティ構成ステータス情報が表示され、セキュリティ構成の編集機能もあります。

Need to Know コンポーネントには、次の構成ページが用意されています。

- ❖ 「[NTK Configuration Information](#)」ページ (3-13 ページ)
- ❖ 「[Content Security Configuration Information](#)」ページ (3-18 ページ)
- ❖ 「[Search Results Configuration Information](#)」ページ (3-23 ページ)
- ❖ 「[Hit Lit Roles Configuration Information](#)」ページ (3-26 ページ)
- ❖ 「[Test NTK Content Security](#)」ページ (3-28 ページ)

「NTK Configuration Information」 ページ

「NTK Configuration Information」 ページには、Need to Know コンテンツ・セキュリティ構成、検索結果構成およびヒット・リスト・ロール構成に関する情報が示されます。このページでは、セキュリティ構成の編集、検索結果構成の編集、ヒット・リスト・ロール構成の編集、構成用の Idoc スクリプトと非表示フィールドの表示および Idoc スクリプトのテストを行うこともできます。このページにアクセスするには、「Administration」 → 「NTK Configuration Information」と選択します。

NTK Configuration Information

Content Security Configuration Information

Access Level	Enabled	Limit Access	Script
Read	No	No	View Test
Write	No	No	View Test
Delete	No	No	View Test

Disclosure Field: <none>
Security Auth Groups: <All Special Auth Groups>
Debug: No

[Edit](#)

Search Results Configuration Information

Hidden Fields: [View](#)
Script: [View](#)

[Edit](#)

Hit List Roles Configuration Information

Query Role: <none>
Update Role: <none>
Allow Hit List Role for Anonymous Users: No

[Edit](#)

機能	説明
Content Security Configuration Information	
「Access Level」 列	コンテンツ・アイテムにアクセスするための権限レベル（読取り、書込み、削除）を表示します。
「Enabled」 列	<p>読取り、書込みまたは削除アクセスに対して Need to Know セキュリティが有効かどうかを示します。</p> <p>No: Need to Know セキュリティは、アクセス・レベルで無効です。これがデフォルトです。</p> <p>Yes: Need to Know セキュリティは、アクセス・レベルで有効です。</p>
「Limit Access」 列	<p>読取り、書込みおよび削除アクセスが Need to Know セキュリティで制限されているかどうかを指定します。ユーザー・アクセスの制限に Need to Know セキュリティが使用されている場合、コンテンツ・アイテムに対する標準の読取り、書込みまたは削除アクセス権がユーザーにあるかどうかに関係なくアクセスは制限されます。ユーザー・アクセスの制限に Need to Know セキュリティが使用されていない場合、ユーザーはコンテンツ・アイテムに標準アクセスできます。この機能によって、標準セキュリティ・モデルより制限の強いセキュリティ・モデルを作成できます。</p> <p>No: アクセスは Need to Know セキュリティで制限されていません。これがデフォルトです。</p> <p>Yes: アクセスは Need to Know セキュリティで制限されています。</p>

機能	説明
「Script」列	<p>コンテンツ・アイテムに対する読取り、書込み、削除のアクセス権がユーザーにあるかどうかを評価する Idoc スクリプトを表示またはテストするリンクがあります。Need to Know コンポーネントでは、3つのパラメータのいずれかをフラグとして使用して、アクセス権が付与されているかどうかを判断します。</p> <p>読取りアクセス : isNTKReadAccess 書込みアクセス : isNTKWriteAccess 削除アクセス : isNTKDeleteAccess</p> <p>Idoc スクリプトを表示するアクセス・レベルの行で「View」をクリックします。スクリプトでは、Need to Know コンポーネントで、読取り、書込み、削除のアクセス権がユーザーにあるかどうかの評価されます。</p> <p>Need to Know セキュリティ構成をテストするアクセス・レベルの行で「Test」をクリックします。「NTK Test Content Security」ページが表示されます。このページを使用して、セキュリティ構成用の Idoc スクリプトのテストを作成および実行できます。詳細は、3-28 ページの「Test NTK Content Security ページ」を参照してください。</p>

機能	説明
「Disclosure Field」 オプション	<p>Idoc スクリプト関数 <code>isDisclosureQuery</code> に対して評価されるカスタム・メタデータ・フィールドを表示します。開示フィールドを使用して、コンテンツ固有の問合せを作成できます。デフォルト値は <code><none></code> です。</p> <p>Configuration Manager を使用してこのフィールドを作成し、メモ・フィールド・タイプにします。詳細は、第 2 章「インストールと構成」 を参照してください。</p> <p>開示フィールドがある場合、「Content Check In Form」 ページでは、このフィールドの隣に「Update」 ボタンが表示されます。ボタンをクリックして「Disclosure Query Security」 アプレット (3-7 ページの「Disclosure Query Security アプレット」を参照) にアクセスします。アプレットは、ユーザー・メタデータに基づいた問合せの作成に役立ちます。</p>
「Security Auth Groups」 オプション	<p>Need to Know セキュリティが使用されるセキュリティ・グループのリストを表示します。グループは、<code>SpecialAuthGroups</code> 構成変数のサブセットです。グループが選択されていない場合、すべての <code>SpecialAuthGroups</code> が使用されます。<code>SpecialAuthGroups</code> のデフォルト値は <code><All Special Auth Groups></code> です。</p> <p>Configuration Manager を使用して、<code>config.cfg</code> ファイルに <code>SpecialAuthGroups</code> 値を指定します。詳細は、第 2 章「インストールと構成」 を参照してください。</p>
「Debug」 オプション	<p>デバッグ・オプションのステータスを表示します。</p> <p>Yes: コンテンツ・アイテムに対して行われたセキュリティ・チェックに関するデバッグ情報がログ・ファイルに書き込まれます。管理者ロールのユーザーは、コンテンツ・アイテムへのアクセスが常に許可されるため、記録されません。</p> <p>No: デバッグ情報はログ・ファイルに書き込まれません。</p>

機能	説明
「Edit」 ボタン	「Content Security Configuration Information」ページを表示します。このページでは、コンテンツ・セキュリティ構成を変更できます。
Search Results Configuration Information	
「Hidden Fields」 フィールド	「View」 をクリックして、「Search Results」 ページで非表示にできるフィールドのリストを表示します。
「Script」 フィールド	「View」 をクリックして、「Search Results」 ページの表示を制御する Idoc スクリプトを表示します。
「Edit」 ボタン	「Search Results Configuration Information」 ページを表示します。このページでは、検索結果セキュリティ構成を変更できます。
Hit Lit Roles Configuration Information	
「Query Role」 フィールド	問合せロールの名前または <none> を表示します。このロールは、「Search」 問合せページで適用されます。
「Update Role」 フィールド	更新ロールの名前または <none> を表示します。このロールは、コンテンツ・チェックインまたは更新ページで適用されます。
「Allow Hit List Role for Anonymous Users」 フィールド	匿名ユーザーにヒット・リスト・ロールを適用します。 No: ヒット・リスト・ロールは、匿名ユーザーに適用されません。これがデフォルト値です。 Yes: ヒット・リスト・ロールは、匿名ユーザーに適用されます。
「Edit」 ボタン	「Hit List Roles Configuration Information」 ページを表示します。このページでは、ヒット・リスト・ロール・セキュリティ構成を変更できます。

「Content Security Configuration Information」 ページ

「Content Security Configuration Information」ページでは、読取り、書込み、削除のセキュリティとアクセス構成、および Need to Know コンポーネントの他のオプションを変更できます。このページにアクセスするには、「NTK Configuration Information」ページの「Content Security Configuration Information」領域の「**Edit**」をクリックします。

Content Security Configuration Information

NTK Configuration Information --> Content Security Configuration Information

Read Options

Use Security

No

Limit Access

No

Script

Write Options

Use Security

No

Limit Access

No

Script

Delete Options

Use Security

No

Limit Access

No

Script

Other Options

Disclosure Field

Security Auth Groups

☒ All Auth Groups

Debug


No

Update

Reset

機能	説明
Read Options	
「Use Security」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたセキュリティを使用します。</p> <p>No: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用します。</p>
「Limit Access」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたとおりにアクセス権限を制限します。</p> <p>No: アクセス権限を制限しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: アクセス権限を制限します。</p>
「Script」 フィールド	このフィールドに IdocScript を入力し、読取り権限に対する Need to Know セキュリティ構成を指定します。
Write Options	
「Use Security」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたセキュリティを使用します。</p> <p>No: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用します。</p>
「Limit Access」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたとおりにアクセス権限を制限します。</p> <p>No: アクセス権限を制限しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: アクセス権限を制限します。</p>
「Script」 フィールド	このフィールドに IdocScript を入力し、書込み権限に対する Need to Know セキュリティ構成を指定します。

機能	説明
Delete Options	
「Use Security」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたセキュリティを使用します。</p> <p>No: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: Need to Know コンテンツ・セキュリティを使用します。</p>
「Limit Access」 リスト	<p>「Script」 フィールドで指定されたとおりにアクセス権限を制限します。</p> <p>No: アクセス権限を制限しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: アクセス権限を制限します。</p>
「Script」 フィールド	このフィールドに IdocScript を入力し、削除権限に対する Need to Know セキュリティ構成を指定します。
Other Options	
「Disclosure Field」 フィールド	<p>開示フィールドの名前をリストから選択します。このフィールドは、コンテンツ固有の問合せでのセキュリティの構成に使用されます。</p> <p> 注意: Configuration Manager を使用してコンテンツ・アイテム・レベルの問合せに対するメタデータ・フィールドを作成した場合、そのフィールドがオプションとしてリストに表示されます。</p>
「Security Auth Groups」 フィールド	<p>コンテンツ固有の問合せで使用する SpecialAuthGroups を入力します。「General Configuration」 ページを使用して、Need to Know コンポーネントに対する特定のセキュリティ・グループを作成した場合、ここでグループを指定できます。セキュリティ・グループを追加する必要がある場合、「Additional Configuration Variables」 で config.cfg ファイルの SpecialAuthGroups 値を編集することもできます。</p>

機能	説明
「All Auth Groups」チェック・ボックス	<p>Need to Know コンポーネントで、「Security Auth Groups」フィールドにリストされている特定のグループではなく、すべての SpecialAuthGroups を使用することを指定します。このチェック・ボックスはデフォルトで選択されています。</p> <p> 注意: Records Management などの他の製品でも SpecialAuthGroups 変数を使用できます。Need to Know セキュリティ構成で使用するセキュリティ・グループのみを指定するよう注意してください。</p>
「Debug」リスト	<p>コンテンツ・アイテムに対するセキュリティ・チェックの表示にデバッグを使用するかどうかを選択します。</p> <p>Yes: コンテンツ・アイテムに対して行われたセキュリティ・チェックに関するデバッグ情報がログ・ファイルに書き込まれます。管理者ロールのユーザーは、コンテンツ・アイテムへのアクセスが常に許可されるため、記録されません。</p> <p>デバッグが使用される場合、「View」と「Clear」の2つの追加オプションが表示されます。「View」をクリックして、デバッグ情報のログ・ファイルを表示します。「Clear」をクリックして、情報のログ・ファイルを空にします。</p> <p>No: デバッグは使用されず、情報はログ・ファイルに書き込まれません。これがデフォルト値です。</p>
「Update」ボタン	<p>新しい設定を使用してコンテンツ・セキュリティ情報を更新します。Content Server が再起動され、「NTK Configuration Information」ページに戻ります。</p>
「Reset」ボタン	<p>コンテンツ・セキュリティ構成設定を、最後に保存された値に戻します。</p>

「Search Results Configuration Information」ページ

「Search Results Configuration Information」ページでは、検索問合せから返される検索結果をカスタマイズできます。返されるコンテンツ・アイテムは影響を受けません。結果の表示方法のみが影響を受けます。このページにアクセスするには、「NTK Configuration Information」ページの「Search Results Configuration Information」領域の「Edit」をクリックします。

Search Results Configuration Information

NTK Configuration Information --> Search Results Configuration Information

Hidden Fields

<< Add

Remove >>

Available Fields

Standard
Content ID
Content Type
Title
Author
Security Group
Score
Account
Release Date
Expiration Date

Script

Update

Reset

機能	説明
「Hidden Fields」ボックス	コンテンツ検索問合せの結果のビューに表示されないフィールドのリストを表示します。値は空の文字列に設定されます。検索結果スクリプトでフィールド <code>hideFields</code> が設定されている場合、これらのフィールドは表示されません。
「Available Fields」ボックス	コンテンツ検索問合せの結果に含まれるフィールドのリストを表示します。
「Add」ボタン	フィールド名を選択して「 Add 」をクリックし、フィールドを「Available Fields」リストから「Hidden Fields」リストに移動すると、フィールドがコンテンツ検索結果で非表示になります。
「Remove」ボタン	フィールド名を選択して「 Remove 」をクリックし、フィールドを「Hidden Fields」リストから「Available Fields」リストに移動すると、フィールドがコンテンツ検索結果で表示されます。
「Script」フィールド	<p>このフィールドに <code>Idoc</code> スクリプトを入力し、検索結果の表示を制御します。検索結果の行ごとに、<code>Idoc</code> スクリプトが評価されます。多くのフィールドを設定して表示を変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • docInfo:enabled - コンテンツ情報リンクを無効にするには、0 に設定します。 • docInfo:link - コンテンツ情報ページ・リンクを変更するには、これを設定します。 • docInfo:image_small - 情報リンクの小さいイメージを変更するには、これを設定します。 • docInfo:image_large - 情報リンクの大きいイメージを変更するには、これを設定します。（この設定は、SCS バージョン 7.5 には適用されません。）

機能	説明
「Script」 フィールド	<ul style="list-style-type: none"> • url:enabled - URL リンクを無効にするには、0 に設定します。 • url:link - URL リンクを変更するには、これを設定します。 • url:image - URL リンクのイメージを変更するには、これを設定します。 • revHistory:enabled - 改訂履歴リンクを無効にするには、0 に設定します。（この設定は、SCS バージョン 7.5 には適用されません。） • revHistory:link - 改訂履歴リンクを変更するには、これを設定します。（この設定は、SCS バージョン 7.5 には適用されません。） • checkout:enabled - チェックアウト・リンクを無効にするには、0 に設定します。 • checkout:link - チェックアウト・リンクを変更するには、これを設定します。 • actions:enabled - アクション・ポップアップ・リンクを無効にするには、0 に設定します。 • checkInSimilar:enabled - 「Check In Similar」 リンクを無効にするには、0 に設定します。 • email:enabled - 電子メール・リンクを無効にするには、0 に設定します。 • dynConv:enabled - 「Dynamic Converter」 リンクを無効にするには、0 に設定します。
「Update」 ボタン	<p>検索問合せ結果の構成を更新し、Content Server を再起動して「NTK Configuration Information」ページに戻ります。</p>
「Reset」 ボタン	<p>検索結果構成設定を、最後に保存された値に戻します。</p>

「Hit Lit Roles Configuration Information」ページ

「Hit Lit Roles Configuration Information」ページでは、ユーザーのヒット・リスト・ロールを構成できます。このページにアクセスするには、「NTK Configuration Information」ページの「Hit List Roles Configuration Information」領域の「Edit」をクリックします。

Hit List Roles Configuration Information

NTK Configuration Information --> Hit List Roles Configuration Information

Query Role

Update Role

Allow Hit List Role for Anonymous Users

機能	説明
「Query Role」フィールド	<p>「Search」ページが使用される際に、問合せロールとして適用されるヒット・リスト・ロールを選択します。読取りアクセス権を持つセキュリティ・グループが選択リストに表示されます。ユーザーがすでに読取りアクセス権を持つセキュリティ・グループ・ロールも含まれます。</p> <p>このロールは、コンテンツ・セキュリティとは別です。コンテンツ・セキュリティ用に構成された検索結果に、コンテンツ・アイテムを表示できても、そのアイテムの「Content Information」ページを表示できない場合があります。</p>

機能	説明
「Update Role」 フィールド	<p>「Update」 ページが使用される際に、更新ロールとして適用されるヒット・リスト・ロールを選択します。書込みアクセス権を持つセキュリティ・グループが選択リストに表示されます。ユーザーがすでに書込みアクセス権を持つセキュリティ・グループ・ロールも含まれます。コンテンツ・アイテムが実際にチェックインまたは更新される際、このロールは適用されません。</p> <p>このフィールドは、コンテンツ・セキュリティと組み合わせると最も有効です。このフィールドの使用例は、第4章「セキュリティ・カスタマイズのサンプル」を参照してください。</p>
「Allow Hit List Role for Anonymous Users」 フィールド	<p>匿名ユーザーにヒット・リスト・ロールを適用します。</p> <p>No: 匿名ユーザーにヒット・リスト・ロールを適用しません。これがデフォルト値です。</p> <p>Yes: 匿名ユーザーにヒット・リスト・ロールを適用します。</p>
「Update」 ボタン	<p>ヒット・リスト構成を更新し、Content Server を再起動して「NTK Configuration Information」ページに戻ります。</p>
「Reset」 ボタン	<p>ヒット・リスト・ロール構成設定を、最後に保存された値に戻します。</p>

「Test NTK Content Security」 ページ

「Test NTK Content Security」 ページでは、ユーザーに対するテスト・セキュリティ・スクリプトを実行できます。このページにアクセスするには、「NTK Configuration Information」 ページに表示されている、いずれかのアクセス権限レベルの「Script」列の「Test」をクリックします。

機能	説明
「Access Level」 フィールド	テストするよう選択した権限レベルに対するアクセスレベル（読取り、書込みまたは削除）を表示します。
「Script」 フィールド	コンテンツ・セキュリティ構成をテストする Idoc スクリプトを入力します。
「User」 フィールド	テスト用のユーザー ID を入力します。
「Set Attributes」 チェック・ボックス	チェック・ボックスを選択して、ユーザーの既存の属性と一致するユーザー属性を自動的に設定します。

機能	説明
「Roles」 フィールド	テスト用にユーザーに割り当てるロールを入力します。属性にアクセスできない外部ユーザーを使用してテストを行う場合、このフィールドを使用します。
Accounts	テスト用にユーザーに割り当てるアカウントを入力します。属性にアクセスできない外部ユーザーを使用してテストを行う場合、このフィールドを使用します。
Content ID	テスト用のコンテンツ ID を入力します。
「Test」 ボタン	「Test」 をクリックして、「Test NTK Content Security」 ページで指定した構成をテストします。Need to Know コンポーネント・テストから結果（指定したアクセス権がユーザーにあるかどうか、Need to Know セキュリティが使用されたかどうか、Need to Know セキュリティが使用されなかった場合はその理由）が返されます。
「Reset」 ボタン	NTK コンテンツ・セキュリティのテスト構成の設定を、最後に保存された値に戻します。

4

セキュリティ・カスタマイズの サンプル

概要

この章では、セキュリティ・モデルのカスタマイズ例を示します。

- ❖ [コンテンツ・セキュリティのサンプル](#) (4-1 ページ)
- ❖ [検索結果のサンプル](#) (4-3 ページ)
- ❖ [ヒット・リスト・ロールのサンプル](#) (4-4 ページ)

コンテンツ・セキュリティのサンプル

この項では、コンテンツ・セキュリティのカスタマイズ例を示します。

- ❖ [簡単な Idoc スクリプト関数](#) (4-2 ページ)
- ❖ [stdSecurityCheck の使用](#) (4-2 ページ)
- ❖ [isStrIntersect の使用](#) (4-2 ページ)
- ❖ [allStrIntersect の使用](#) (4-3 ページ)
- ❖ [includeNTKReadSecurityScript の使用](#) (4-3 ページ)

簡単な Idoc スクリプト関数

このサンプルでは、ユーザーの Color カスタム・フィールドとコンテンツの Color カスタム・フィールドが一致した場合に読取りアクセスが許可されます。

```
<$if strEquals(uColor, xColor)$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

stdSecurityCheck の使用

このサンプルでは、ユーザーの Color が Blue で、コンテンツへの標準セキュリティがユーザーにある場合、読取りアクセスが許可されます。

```
<$if stdSecurityCheck() and strEquals(uColor, "Blue")$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

isStrIntersect の使用

このサンプルでは、3 が最初の文字列のメンバーであるため、true が返されます。

```
<$if isStrIntersect("1,2,3,4", "5,3")$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

このサンプルでは、5 も 6 も最初の文字列のメンバーでないため、false が返されます。

```
<$if isStrIntersect("1,2,3,4", "5,6")$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

このサンプルでは、2 番目の文字列が空で、3 番目のパラメータが指定されていないため、false が返されます。

```
<$if isStrIntersect("1,2,3,4", "")$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

このサンプルでは、2 番目の文字列が空で、3 番目のパラメータが true のため、true が返されます。

```
<$if isStrIntersect("1,2,3,4", "", 1)$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

このサンプルでは、2 番目の文字列が空で、3 番目のパラメータが false のため、false が返されます。3 番目のパラメータは文字列 ("True"、"T" など) でも数値 (1、0 など) でもよいことに注意してください。

```
<$if isStrIntersect("1,2,3,4", "", 0)$>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

allStrIntersect の使用

このサンプルでは、5 が最初の文字列のメンバーでないため、**false** が返されます。

```
<$if allStrIntersect("1,2,3,4", "5,3") $>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

このサンプルでは、3 および 4 が最初の文字列のメンバーであるため、**true** が返されます。

```
<$if allStrIntersect("1,2,3,4", "3,4") $>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

4-2 ページの「[isStrIntersect の使用](#)」の 3 番目のパラメータを使用するサンプルは、allStrIntersect でも同様に動作します。

includeNTKReadSecurityScript の使用

読取りスクリプト：

```
<$if strEquals(dDocType, "ADACCT") $>
<$isNTKReadAccess=1$>
<$endif$>
```

書込みスクリプト：

```
<$includeNTKReadSecurityScript() $>
<$if isNTKReadAccess and strEquals(uColor, "Red") $>
<$isNTKWriteAccess=1$>
<$endif$>
```

読取りアクセス権（タイプ ADACCT）があり、ユーザーの Color が Red の場合、ユーザーは、コンテンツ・アイテムへの書込みアクセスを得ます。

検索結果のサンプル

この項では、検索結果のカスタマイズ例を示します。

- ❖ [リンクの無効化](#)（4-4 ページ）
- ❖ [リンクの変更](#)（4-4 ページ）
- ❖ [イメージの変更](#)（4-4 ページ）

リンクの無効化

このサンプルでは、コンテンツ・アイテムの読取りアクセス権がユーザーにない場合、URL とコンテンツ情報のリンクが無効になります。これは、検索結果に追加のコンテンツ・アイテムを表示する問合せロールを設定するが、追加アイテムへのリンクをユーザーに表示しない場合などに使用できます。

```
<$if not securityCheck()$>
<$docInfo:enabled=0$>
<$url:enabled=0$>
<$endif$>
```

リンクの変更

このサンプルでは、コンテンツの Color が Red の場合、コンテンツ情報と URL のリンクを別のサービスに変更します。

```
<$if strEquals(xColor, "Red")$>
<$docInfo:link=HttpCgiPath & "?IdcService=GET_USER_INFO"$>
<$url:link="javascript:alert('Cannot view content.')"$>
<$endif$>
```

イメージの変更

このサンプルでは、コンテンツ・アイテムの Color が Green の場合、コンテンツ情報のリンクを変更します。

```
<$if strEquals(xColor, "Green")$>
<$docInfo:image_small=HttpImagesRoot & "stellent/tree_icons/historical.gif"$>
<$endif$>
```

ヒット・リスト・ロールのサンプル

この項では、ヒット・リスト・ロールのカスタマイズ例を示します。

- ❖ [問合せヒット・リスト・ロールの使用](#) (4-4 ページ)
- ❖ [ブラック・ホール・チェックインの作成](#) (4-5 ページ)

問合せヒット・リスト・ロールの使用

問合せロールを queryRole に設定し、セキュリティ・グループ NTKGroup への書込みアクセス権が queryRole にある場合、NTKGroup は、セキュリティ・グループ・オプション・リストに表示されます。検索結果構成値をカスタマイズすることで、コンテンツ情報の表示を制限できます。

ブラック・ホール・チェックインの作成

更新ロールを使用して、ユーザーがコンテンツ・アイテムをチェックインし、そのアイテムの表示も編集もできないシナリオを作成できます。次の処理を行う必要があります。

1. セキュリティ・グループ **NTKGroup** への読取り / 書込みアクセス権を持つ **updateRole** という名前のロールを作成します。
2. メタ変更が発生し、セキュリティ・グループが **NTKGroup** の場合、アクセスを許可するよう書込みセキュリティ・スクリプトを更新します。

```
<$if isMetaChange and strEquals(dSecurityGroup, "NTKGroup")$>  
<$isNTKWriteAccess=1$>  
<$endif$>
```




サード・パーティ・ライセンス

概要

この付録では、この製品に含まれるすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスを示します。

- ❖ [Apache Software License](#) (A-2 ページ)
- ❖ [W3C® Software Notice and License](#) (A-2 ページ)
- ❖ [Zlib License](#) (A-4 ページ)
- ❖ [General BSD License](#) (A-5 ページ)
- ❖ [General MIT License](#) (A-5 ページ)
- ❖ [Unicode License](#) (A-6 ページ)
- ❖ [その他の帰属](#) (A-7 ページ)

APACHE SOFTWARE LICENSE

* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
* you may not use this file except in compliance with the License.
* You may obtain a copy of the License at
* <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
*
* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
* WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
* See the License for the specific language governing permissions and
* limitations under the License.

W3C® SOFTWARE NOTICE AND LICENSE

* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
* All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
*
* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
* being provided by the copyright holders under the following license. By
* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
* you have read, understood, and will comply with the following terms and
* conditions:
*
* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
* documentation, with or without modification, for any purpose and without
* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
* including modifications, that you make:
*
* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
* redistributed or derivative work.

*
* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
* and conditions.If none exist, a short notice of the following form
* (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
* body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
* [\$date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts
* Institute of Technology, Institut National de Recherche en
* Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights
* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"
*
* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the
* date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location
* from which the code is derived.)
*
* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS
* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT
* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR
* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE
* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.
*
* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR
* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR
* DOCUMENTATION.
*
* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising
* or publicity pertaining to the software without specific, written prior
* permission.Title to copyright in this software and any associated
* documentation will at all times remain with copyright holders.
*

ZLIB LICENSE

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
including commercial applications, and to alter it and redistribute it
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
claim that you wrote the original software. If you use this software
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

GENERAL BSD LICENSE

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

GENERAL MIT LICENSE

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

UNICODE LICENSE

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

サード・パーティ・ライセンス

索引

A

allStrIntersect 関数, 3-3

C

checkMetaChangeSecurity フィルタ, 3-6
Component Manager でのインストール, 2-2
Component Wizard でのインストール, 2-1
「Content Security Configuration Information」ページ,
3-18

D

「Disclosure Query Security」アプレット, 3-7
DocDisclosureQuery フィールド, 3-9

H

「Hit Lit Roles Configuration Information」ページ, 3-26

I

Idoc スクリプト関数, 3-3
includeNTKDeleteSecurityScript 関数, 3-3
includeNTKReadSecurityScript 関数, 3-3
includeNTKWriteSecurityScript 関数, 3-3
isDisclosureQuery 関数, 3-4, 3-16
isMetaChange 関数, 3-4
isNTKDeleteAccess パラメータ, 3-15
isNTKReadAccess パラメータ, 3-15
isNTKWriteAccess パラメータ, 3-15
isStrIntersect 関数, 3-4

N

Need to Know
概要, 1-1
機能, 1-2
セキュリティ実装, 1-3
要件, 1-4
NTK, 「Need to Know」を参照
NtkDocDisclosure, 「Need to Know」を参照
NTKFilter Java クラス, 3-6
NTK 構成ページ, 3-13

P

postDetermineWhereClause フィルタ, 3-6
preDetermineWhereClause フィルタ, 3-6

R

Records Management
NTK との対話, 3-22

S

Search Results Configuration Information ページ, 3-23
securityCheck 関数, 3-5
SpecialAuthGroups
コンテンツ・セキュリティでの使用, 3-16, 3-21,
3-22
ヒット・リスト・ロールでの使用, 3-6
SpecialAuthGroups 変数, 3-22
stdSecurityCheck 関数, 3-4
Stellent
サポート, 1-5

T

「Test NTK Content Security」 ページ, 3-28

W

WHERE 句

カスタマイズ, 3-6

い

インストール

Component Manager の使用, 2-2

Component Wizard の使用, 2-1

け

検索結果のサンプル

イメージの変更, 4-4

リンクの変更, 4-4

リンクの無効化, 4-4

検索結果の表示

カスタマイズ, 3-5

設定, 3-24

こ

コンテンツ・セキュリティ

Idoc スクリプト関数, 3-3

Need to Know プロセス, 3-2

概要, 3-2

コンテンツ・セキュリティのサンプル

allStrIntersect の使用, 4-3

includeNTKReadSecurityScript の使用, 4-3

isStrIntersect の使用, 4-2

stdSecurityCheck の使用, 4-2

簡単な Idoc スクリプト関数, 4-2

さ

サポート, 1-5

ち

チェックインの問合せの定義

「Disclosure Query Security」 アプレットの使用,
3-7

「DocDisclosureQuery」 フィールドの使用, 3-9
手順, 3-11

て

テスト

構成スクリプト, 3-2

セキュリティ・スクリプト, 3-28

と

問合せの構文

like 演算子, 3-9

stdSecurity 変数, 3-10

UserName 変数, 3-10

ブール演算子, 3-10

部分文字列, 3-9

ユーザー属性フィールド, 3-10

ユーザー・ロール, 3-11

ワイルドカード文字列, 3-9

ひ

ヒット・リスト・ロール

概要, 3-6

構成ロール, 3-26

ヒット・リスト・ロールのサンプル

問合せロールの使用, 4-4

ブラック・ホール・チェックインの作成, 4-5

非表示フィールド構成値, 3-5

ふ

フィルタ

checkMetaChangeSecurity, 3-6

postDetermineWhereClause, 3-6

preDetermineWhereClause, 3-6